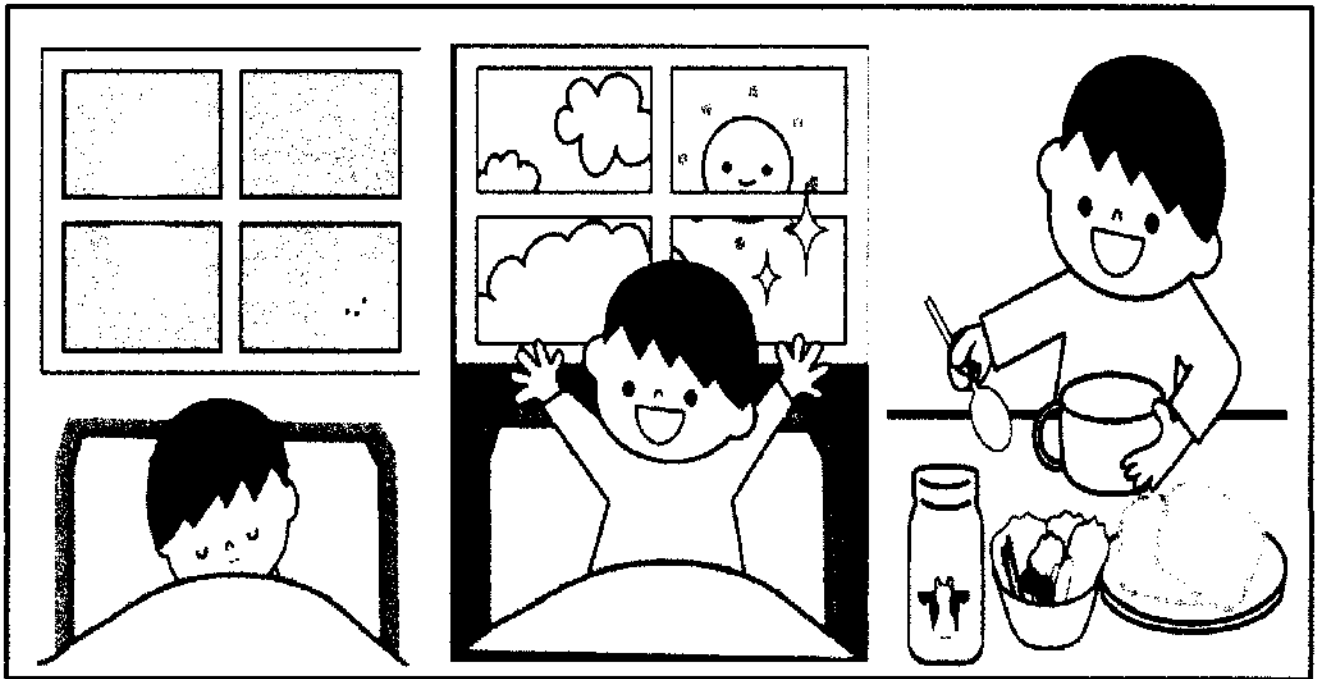


令和3年度  
学校保健委員会

令和3年7月20日（木）



渋谷区立神宮前小学校

## <内容>

1. 校長挨拶
2. 講師・校医紹介
3. 本校児童の健康診断の結果
4. 講演 心を育む～互いを認め合う 環境づくり～
5. 質疑応答
6. 学校医の先生方より
7. 副校長挨拶

## 令和3年度 定期健康診断結果より

### 1 発育測定

	学年	身長(cm)			体重(kg)		
		本校	都	全国	本校	都	全国
男子	1年	118.4	117.0	117.8	21.5	21.6	21.8
	2年	121.5	123.2	123.5	23.4	24.5	25.2
	3年	128.4	128.6	128.9	27.4	27.4	28.2
	4年	134.3	133.9	134.4	30.5	30.6	32.4
	5年	141.4	139.8	139.9	35.3	34.9	36.8
	6年	147.1	145.6	147.3	41.4	38.9	40.2
女子	1年	115.9	116.1	116.7	20.7	21.0	21.3
	2年	123.3	121.8	122.7	23.8	23.4	24.2
	3年	128.6	127.6	128.2	27.9	26.5	26.7
	4年	135.1	133.4	133.3	29.6	29.8	30.3
	5年	140.5	140.6	141.5	34.0	34.3	34.5
	6年	148.5	146.9	148.3	42.5	38.7	41.5

※都平均は令和元年度・全国平均は令和2年度の学校保健統計の値です。

※発育には個人差があります。平均は参考程度にご覧ください。

※個別に発育グラフを作成しますので、発育にご心配がある方は連絡してください。

### 2 視力検査

(%)

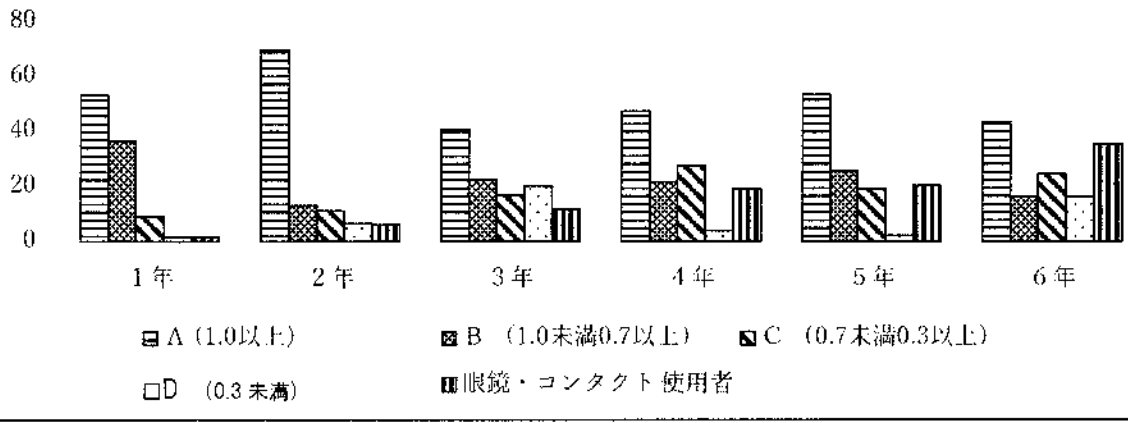
	A (1.0以上)	B (1.0未満0.7 以上)	C (0.7未満0.3 以上)	D (0.3未満)	眼鏡・コンタクト 使用者
1年	53.0	36.4	9.1	1.5	1.5
2年	69.4	12.9	11.2	6.5	6.1
3年	40.7	22.2	16.7	20.3	11.5
4年	47.1	21.6	27.5	3.9	19.0
5年	53.2	25.5	19.1	2.1	20.3
6年	43.2	16.2	24.3	16.2	35.1
平均	51.1	22.5	18.0	8.4	15.6

※裸眼視力が左右異なる場合は、低い方で集計しています。

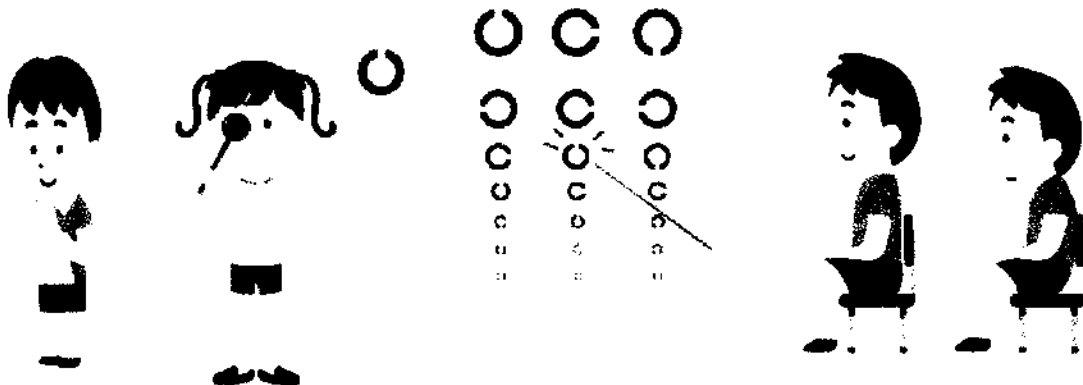
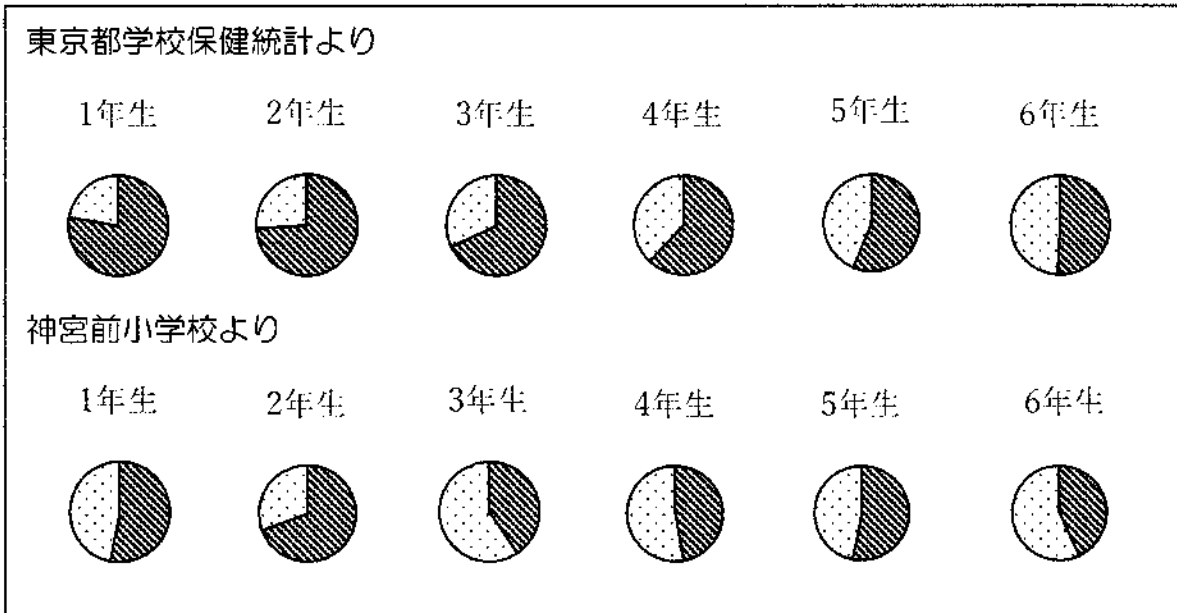
※眼鏡・コンタクト使用者はA～Dの結果には入っていません。

※高学年に進むにつれて、眼鏡・コンタクト使用者が増える傾向があります。

### 視力検査結果グラフ



### <視力検査 1.0 以上と 1.0 未満の比較> 1.0 以上 1.0 未満



## 3 内科健診

(%)

	肺雑音	湿疹	運動器	側弯
1年	1.5	1.5	0	4.6
2年	0	0	0	7.6
3年	0	3.3	1.7	0
4年	0	3.2	1.6	1.6
5年	1.7	3.4	6.8	3.4
6年	0	3.6	3.6	3.6

## 4 歯科検診

(%)

	顎関節	歯列・咬合	歯垢の状態	歯肉の状態
1年	0	3.1	0	0
2年	0	1.5	1.5	0
3年	0	3.3	3.3	0
4年	0	4.8	1.6	0
5年	0	10.7	0	0
6年	0	5.4	0	0

## 5 耳鼻科検診

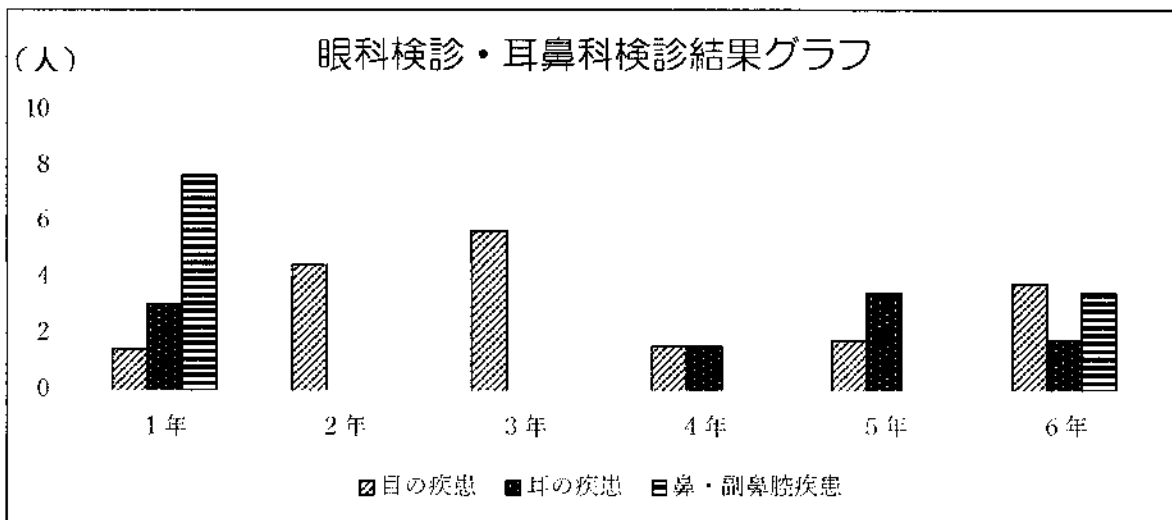
(%)

	耳垢注意	耳垢塞栓	鼻炎	アレルギー性鼻炎
1年	13.8	3.1	6.2	1.5
2年	7.6	0	0	0
3年	5.2	0	0	0
4年	0	1.6	0	0
5年	0	3.5	0	0
6年	1.8	1.8	0	3.5

## 6 眼科検診

(%)

	外斜視	外斜位	内斜位	その他
1年	1.5	0	0	1.5
2年	1.5	1.5	1.5	0
3年	1.9	3.8	0	0
4年	1.6	0	0	0
5年	1.8	0	0	0
6年	0	3.8	0	0



※ 眼の疾患…眼位異常

※ 耳の疾患…耳垢栓塞

※ 鼻・副鼻腔疾患…鼻炎・アレルギー性鼻炎

### 7 保健室利用状況

	ケガなど	体調不良	その他
4月	142人	56人	3人
5月	213人	59人	3人
6月	215人	86人	12人



令和3年7月20日(火)  
渋谷区立神宮前小学校  
14:30～15:30

心を育む ～互いを認め合う 環境づくり～

1. はじめに
2. 思春期の心をつかむ会話術 (資料1)
3. 思春期の心の揺れを抑える方法 (資料2)
4. 最近のわが子との会話で気付いたこと(グループ討議・発表)
5. 子育てワンポイントアドバイス (資料3)
  - ① 家庭生活の本質
  - ② 家庭生活上で大切にしたいこと
  - ③ 家庭生活のリズム
  - ④ 思春期 ～揺れ動く心～
  - ⑤ 第二次性徴の発現
  - ⑥ 子どものストレスを解消するために
  - ⑦ 我が家の味
  - ⑧ 進路の選択
  - ⑨ 地域が育てる勤労意欲
  - ⑩ 子どもの心を早くキャッチ  
～いじめに対する親の対応～
  - ⑪ 子どもの心を早くキャッチ  
～子どもが不登校を始めたとき～
  - ⑫ 社会の問題に目を向けよう
  - ⑬ ストップ・ザ非行!
  - ⑭ 自らを成長させるボランティア活動
  - ⑮ 地域活動への参加を通して  
社会性を
  - ⑯ 父親、母親の役割
  - ⑰ 親子の団らん
  - ⑱ 子どもと共に夢を語り合おう

明るく、朗らかに、わたしが太陽に

6. 見逃さないで！ 子どもの心のSOS (資料4)

7. まとめ

東京都教職員互助会 常任講師  
橋本 由愛子

橋本 由愛子（はしもと ゆめこ） 紹介 令3. 5

東京都八王子市立公立中学校技術・家庭科担当教諭からスタート

行政経験 30代後半～ 東京都多摩教育事務所指導課指導主事

東京都教育庁指導部中学校教育指導課 指導主事

その後、教頭 八王子市2校 5年間

校長 品川区・北区・世田谷区 3校 12年間勤務

退職後 大学勤務 最後は武蔵野大学5年・東京学芸大学10年

東京教育研究所 常勤5年、非常勤3年 令3退職

現在 東京都目黒区教育委員会 第三者評価委員

東京都教職員互助会 常任講師

所沢市・東久留米市保育園 第三者委員

東京都公立学校退職女性校長会 副会長

主な活動 文部科学省では 中央教育審議会第Ⅱ期委員

農林水産省の委員 等

全日本中学校長会 予算対策部長 3年間

東京都公立中学校女性校長会 会長

テレビ出演 10年前の「世界一受けたい授業」日本テレビ系列

昨年まで5局に70回程度出演。最長は、1年間37回毎週出演の

「ハナタカ優越感」テレビ朝日系列。詳細は、PC「橋本由愛子」で検索



# 思春期の心をつかむ会話術

資料1

- 1 普通の挨拶から ~「おはよう」「お帰り」「おやすみなさい」
  - 2 感謝の言葉を口癖にする ~「ありがとう」
  - 3 自分で考えさせる ~「どうしたのお？」
  - 4 子どもとともに考える ~「どうかなあ？」
  - 5 子どもの話しに耳を傾ける ~「そうなのお」
  - 6 力をつける ~「そうなんだあ」
  - 7 子どもの思いに共感する ~「辛かったねえ」「苦しかったねえ」
  - 8 自分の失敗談を打ち明ける ~「私もダメだった」
  - 9 気持ちを前向きに仕向ける ~「よかったじゃない！」
  - 10 プラスの評価をする ~「頑張ったじゃない！」
  - 11 心をほどく ~「いいんだよ、ここから始めれば」
  - 12 気持ちを吐き出させる ~「それで、どうなの？」
  - 13 認めて自信を持たせる ~「スゴイよねえ」
  - 14 子どもの選択を信じきる ~「大丈夫、きつとうまく行く！」
  - 15 視点を変えてやる ~「そう言えば・・・」
  - 16 自分の考えとして伝える ~「私はこう思うけど・・・」
  - 17 子どもの意思を尊重する ~「あなたはどうしたいの？」
  - 18 大人の物差しを使わない
  - 19 ゆっくりと水を一杯 心を鎮める
  - 20 さりげないスキンシップを
  - 21 メモで気持ちを伝える
  - 22 おどけた一面を見せる
  - 23 恥ずかしがらずに弱音を吐いてみる
  - 24 子どもの同級生として接してみる
  - 25 「君、さん」と付けて呼んでみる
  - 26 何かを一緒に作る
  - 27 アルバムを一緒に見る
  - 28 親や教師の思い出話をする
  - 29 縁側を作る
  - 30 「ごめんね」が素直に言える自分になる
- 子どもとどう向き合うか、自分の姿勢で心を通わせる会話ができるようになることを知り、実践してみましょう。相手が大人でも同じこと。

## 思春期の心の揺れを抑える方法

資料 2

- 1 自分の心が揺れると、相手の心を揺らしてしまう。  
親の心が揺れると、子どもの心は大きく揺れます。  
親が自分の心の揺れを抑えることが大切です。
  
- 2 心の揺れを抑えるには、  
自分の「できること」と「できないこと」を知ること。  
「今すぐにはどうしようもできないことは何なのか」ということを知ること。
  
- 3 少しでも良くしていくためには、  
「今の自分にできることは何なのか」を知ること。  
「良くする」ことではなく、「今以上に悪い状態にしない」を最初の目標にする。
  
- 4 すぐに良い結果を出したいという焦りの気持ちは、  
ときに子どもを思う純粋さを失う。  
子どもの心をさらにざわめかせ、不安や恐怖、イライラや怒りを引き起こす。
  
- 5 親自身が自分を取り戻すと、  
（「今以上に悪い状態にしない」との目標に気付く）  
自分こそが子どもを追い込んでしまっていたのではないかと気付く。  
気付くことによって、これまでの関わりにストップをかけることができる。
  
- 6 親の心にゆとりが生まれると、  
本当に良くしていくための関わりができるようになる。

心の揺れを止めるためには、自分の「できること」と「できないこと」を知り、ときには「今以上に悪い状態にしない」ことを目標にするという方法がありことを知りましょう。そして、実践してみましょう。

## 最近のわが子との会話で気付いたこと

(グループ討議・発表)

(MEMO) ※4人1グループ。推進役を決めてから討議。(発表は数グループ。)

# 子育てワンポイントアドバイス（思春期編）

資料 3

## ① 家庭生活の本質

家庭の責任…子どもを一人前の人間として育てること。

身の回りのことだけではなく、精神的にも経済的にも自立させること。

「よい職業に就くためには、勉強さえできればよい」ではダメ。

親や大人を批判…順調に育ってきている証拠。

無理難題や青臭い議論は、親を信頼している証拠。親の対応を試す。

信頼の基盤…子どもの気持ちを真剣に受け止める姿勢が大切。一緒に考え悩む。

### ワンポイントアドバイス

親の役目…ものさしづくり

ものの見方、考え方の基準となるものさをきちんとつくりましょう。

## ② 家庭生活で大切にしたいこと

ホッとできる家庭…誰もが感じる「我が家に帰るとホッとする」

我が家のルールはありますか？みんなが守っているルールは？

子どもにとって家族は、一番身近で多少の甘えが許される場。

家族にしか言えないこと、家族だから理解できること、

子どもの気持ちをくみ取るとは…世話をやき過ぎない

家族であっても、言葉にして気持ちを伝え、コミュニケーションの能力を高める

親が率先して、日常的なあいさつ、出掛けるときの声掛けをして

いますか？

チャンスを逃がさず…子どもが話しかけてきたときにチャンス

じっくりと話を聞く…から返事はダメ

### ワンポイントアドバイス

理想的な家庭とは…家族が一つ屋根の下に住んでいる

両親の力関係のバランスがとれている

両親と子どもが密着せず独立している

家族全体が同じ目的をもって存在している

（エール大学 リッツ教授）

### ③ 家庭生活のリズム

バランスよく働き始める時間は？・・・目覚めて、2時間後

学校の授業もちょうどよい時間に設定されています。

お子さんの朝起きの時間は？

朝食抜きは、脳はすっかりお休み状態です。・・・朝食は脳への最高の栄養。

夕食後の生活の工夫・・・時間を決めて上手に使っていく力を育てることが大切。

大人になったとき、仕事を能率的に処理していく力となる。

#### ワンポイントアドバイス

我が家には我が家の決まりがあり、これだけは譲れないという、最小限のものは 買きましょう。

### ④ 思春期 ～揺れ動く心～

思春期・・・中学生の時期は大人への移行期。

心身ともに大きく成長し、身体的にも心理的にも大人に・・・。

身体的には・・・第二性徴に急激な変化が始まる。この身体の変化を受け入れることが課題となる。

心理的には・・・反抗的になる。今まで受け入れてきた親や教師の言葉を受け入れなくなる。(第二反抗期)

第二反抗期・・・自立するためには、避けて通れない。

たくさん悩み、反抗し、自分で考えながら大人として自立していく大切な時期。自己意識が強まり、友人とより親密な交友関係をもつようになる。

大人にできること・・・子どもを信じて見守りながら、ともに考え、理解すること。

#### ワンポイントアドバイス

少し離れて見守る心のゆとりをもつ。過干渉はダメ。

子どもの思春期は、親にとって、子離れの時期です。

### ⑤ 第二性徴の発現 ～中学生の身体的発達の特徴～

思春期は、第二性徴とともに始まります。女子は10歳ぐらい、男子は12歳ぐらい。

身長が急に伸び始め、男女によって体つきや生理現象にも違いが見られるようになる。

個人差があるため、周りの人と比べることはない。

体内のホルモンのバランスが変わるため、イライラしたり、身体の変化にとまどい、悩むこともある。また、異性への関心が芽生え始める時期でもある。

思春期の体の変化	女子の変化	男子の変化
	・乳房が発達する	・声変わり
	・発毛(腋、性器)	・発毛(腋、性器)
	・皮下脂肪が増える	・筋肉が発達する
	・腰骨が広がる	・肩幅が広がる
	・丸みのある体つきになる	・たくましい体つきになる

思春期は、ホルモンの働きにより、生涯を通じて一番性成熟がおこる時期。

女子は卵巣の発達により月経が始まり、男子は精巣の発達により精通が始まる。

#### ワンポイントアドバイス

外見は大人でも、まだまだ子どもです。しっかりと目をかけ続けましょう。

## ⑥ 子どものストレスを解消するために

ストレス解消の二つの柱…言葉に出して話す言語化

(友人や家族、ペットなどと話した後、スッキリ)

体を動かす行動化

(スポーツやゲーム、キャンプなどした後、スッキリ)

うまく言語化や行動化ができなくなったとき…家庭内暴力や非行、いじめなどの非社会的行動化をおこすおそれあり。ストレスの攻撃性が内側(自分)に向けられたときには、精神症状(神経症や心身症)をおこす。

#### ワンポイントアドバイス

子どもが長電話をして困るといった話を聞きますが、大目に見ることも必要です。

## ⑦ 我が家の味

「食べる」ことは、生命の維持だけでなく、「共食」を通じて人間的な結びつきが生じ、「おいしい」「楽しい」という心理的な満足感を与えるもの。

家庭のおかずは、家族一人一人の好みや体調、天候、前日の献立をもとに、味付けや食材の組み合わせが工夫されています。

共働きの家庭が増え、食事づくりに時間がかけられず、つい市販のお惣菜に頼りたくなります。しかし、市販品には保存料や添加物などが多く使われていることを知りましょう。

成長期の子どもには、これから長い間摂取していくことを考えると、新鮮な材料を使って、責任の持てる食事を与えることが大切です。

#### ワンポイントアドバイス

お弁当は、親から子どもへのメッセージ

### ⑧ 進路の選択 ～進路は親子の語りから～

将来について考える最初の時期。

中学2年生になると、自分の進路や受験について意識し始める。

親子での話し合い・・・希望する高校、そのためには、予想合格点は？に終始していませんか？そして、テストで何点取ったか。クラスで何番目？など、子どもの点数と比較に心が奪われていませんか？

中学2年生の頃は、鋭い知性と感性を蓄えつつある時期。周囲からのアドバイスや親子の会話によって、自分自身も知らずには新たな能力や適性に気付くことがある。

進路の選択は・・・子どもの意志を尊重し、将来について語っていくことが大切です。

自分の好きなものや打ち込みたいことが見えるようになると、勉強にも熱が入る。

#### ワンポイントアドバイス

子どもには子どもの人生があります。常に親の価値観だけで方向を決めていると、子どもは独自の価値観を形成できなくなります。

### ⑨ 地域が育てる勤労意欲

今、中学生は、地域に目を向け、地域に学び、地域で育っている。

多くの中学校では、「まちとの関わり」「人との関わり」をねらいとして、地域での職場体験やボランティア活動を行っている。子どもたちは、社会体験を通じて、地域社会とのつながりを学んでいる。地域において、社会体験を重ねることは、自分の職業の適性や将来設計について考えるよい機会となっている。

#### ワンポイントアドバイス

学習も仕事も人生も、汗を流し、失敗を重ねながら達成していくものです。

子どもを励まし、温かく見守っていきましょう。

親は、子どもの応援団です。

## ⑩ 子どもの心を早くキャッチ ～いじめに対する親の対応～

いじめのパターン…身体的な暴力、金品・物品の強要、からかい・ひやかし、一見悪ふざけに見える行為など。

いじめは、早期発見が大切…いじめにあった子どもは、誰にも言えずに悩んでいる。そのことを知られないように隠している。しかし、何らかのサインが出ている。そのサインを見落とさない。子どもの変化に気を付けることが大切。

いじめに気付いたとき…子どもが追い詰められている気持ちを受け入れる。

心から安心できる環境づくりをする。

子どもの味方になるという姿勢で接する。

気付いたら、すぐに担任に子どもの悩みを正しく伝え、解決の方法を一緒に考える。

### ワンポイントアドバイス ～家庭で心掛けたいこと～

子どもが安らげる家庭であること。

何でも気軽に話せる雰囲気をつくること。

家族みんなが、常に相手に思いやる気持ちで話したり、行動したりすることに努める。

## ⑪ 子どもの心を早くキャッチ ～子どもが不登校を始めたとき～

子どもが学校に行かなくなったとき、どうしますか？

身体の病気？ …小児科の診断を。

(子どもの35%に身体に病気がみついている場合あり。  
治癒により登校。)

心因性の原因…初期に適切な対応をすることが大切。慌てず、急ぎ過ぎず。

臨床心理士…子どものよき理解者、話し相手としての専門家。  
(カウンセラー)

心の異常…精神科医にみてもらう。ただし、直ぐに「心の異常」と判断することは危険。「不登校」と決めつけることも危険。

登校刺激を上手に加えることが大切。…何もしないままではよくなるしない。



### ワンポイントアドバイス ～登校刺激について～

#### 登校刺激が必要な3つのケース

- ① 保育園、幼稚園、小学校 1～2 年生までの登校渋りや不登校は、「いめっ子がいる」「先生が怖い」等の単純な理由によるものが多いため、原因を解決したうえで登校を促しましょう。園や学校の入り口までついて行くこともよいでしょう。
- ② 不登校の初期・・・登校刺激が「期待」の表明とされるとき、「強制」にならないようにかかわってみましょう。「友達が待っていてくれる」「先生が待っていてくれる」「親がこんなに心配してくれている」・・・このようなメッセージが心に伝わったときに登校できるようになる。
- ③ 不登校の回復期・・・生活のリズムが正常に戻る。家族や友達との会話ができるようになる。外出ができるようになる。  
友達が迎えに来るなど、登校を促す時期が近い。

## ⑫ 社会の問題に目を向けよう

社会の動きや身の回りの出来事に関心をもち、家族で話し合う習慣をつくりましょう。現実には起きている問題について語り合うことは、一種のシミュレーションともなり、心のブレーキ機能やセキュリティを高めることにもつながります。

### ワンポイントアドバイス

普段から、家族で緊急時の連絡方法、緊急避難の場所や方法等を取り決めておく、いざ！というときに役立ちます。

## ⑬ ストップ・ザ非行！

中学 2 年生の頃は、思春期の真っただ中で、心も身体も不安定で揺れている。そこで、支えてくれる確かな何かを求めている。

この時期は、ITの操作能力は大人より優れているかも知れない。しかし、うわさ話やアナログ情報等には翻弄される。また、酒、たばこ、薬物、性に関する誤った情報が広がっている。無知は最も危険。正確な知識はセキュリティの基本。親として、正確な知識と情報の伝授に心掛ける必要がある。中学生は、病気になって初めて、ことの重大さに気付くことがある。その前に、ストップを。

### ワンポイントアドバイス

親が構えると子どもも構えます。大切なことほど事実在即して話してみましょう。  
そして、「あなたはと思う？」と聞いてみるのも効果的。

## ⑭ 自らを成長させるボランティア活動

「ボランティアは、人のために何かをする」というイメージがありますが、本当にそうでしょうか？

次に、ある生徒の作文を紹介します。

私は、そのおばあちゃんを見て、「何とかしてあげたい」でも、何をしてあげたらいいのか分かりませんでした。そのとき、別に考えることじゃなくて、「してあげたいことをしてあげればいいのか」と思い……。私のできることは、これくらいしかなかったからです。でも、そのおばあちゃんは、何回も「ありがとう」「ありがとう」といつてくれました。

十分な介護をしてあげたわけでもないのに、「役に立てたかな」と思いました。私にとっては、小さな小さなことだと思っていたことが、おばあちゃんにとっては嬉しくて、してあげたことがありがたいことだったのだなと思うと、私まで嬉しくて泣いてしまいました。

今回のボランティアをとおして、自分なりに何かを得られたような気がします。家のおばあちゃんは、「うるさい」と思ってばかりでした。でも思えば、「みんな私のことを思って話すのだな」心配してくれて話をしてくれているのに「うるさい」と思うのは失礼なこと……。そう思えたのは、今回のボランティアに参加したからです。

「少年は必要とされてはじめて、大人になる」この言葉は、ボランティア活動が、人間の成長と自立にどのような貢献をするかについての意味を見事にいい表しています。

中学生が、他の人や社会の「役に立つ」存在として周囲に認められ、かけがえのない存在として「必要とされている」ことを知る。

ボランティア活動は、中学生の社会への参加意識を育てることだけでなく、人間としての成長と自立のための手段でもあるのです。

## ⑮ 地域活動への参加を通して社会性を

今、青少年に最も欠けているのは、地域社会の一員としての体験。そのため、意図的にわが子を地域活動に関わらせたり、隣近所の人たちとの触れ合いをすすめたりすることが必要です。

自分の住んでいる街なのに、知らないことがたくさんあるという子どもが多くいます。

地域を知るために、親子でボランティアをすることもよいでしょう。

自分の街の良いところが見えてきます。自分の住んでいる街が好きになります。地域からは、人間として生きていくための知恵や体験を通して、多くのことを学びます。

- ・公園の掃除 ・散歩しながらの空き缶拾い ・危ない物が落ちていないかの確認
- ・図書館や児童館などの手伝い など。身近なところから始めるとよいです。

### ワンポイントアドバイス

ボランティア活動のヒントは、毎日の暮らしの中にたくさんあります。

身近なところから、できることから始めてみましょう。

## ⑯ 父親、母親の役割

父親の出番ですよ！ 中学2年生頃になると無口になる子どもが多い。無理やり根ほり葉ほり聞くことはダメ。「男は男同士」「女は女同士」同性として、積極的に関わってみてはいかがでしょうか。

自分自身の失敗談や戸惑いを感じたことなど、親が素直な気持ちで話すことにより、子どもは安心する。子どもの話は、些細なことでも真剣に聞くことが大切。ゆっくり、順序立てて「聴く」ことが必要。しっかりと向き合って、うなずきながら聞くとよいでしょう。

ここ一番というときにお父さん出番です。

### ワンポイントアドバイス

「聴く」ということは、子どものプライドを大切にしながら、お互いの会話を進める潤滑油です。

## ⑰ 親子のだんらん

どの時間に親子の団らんがとれますか？

一日の中で、テレビを一緒に見る機会がありますか。そこから、話題はいかがですか。朝食、夕食・・・一緒に食べる時間はありますか。話題は？学校であった出来事や子どもの友達の話題は聞いていますか。いつ？

ちょっとだけ意識することで、会話ができます。話し上手より、聞き上手になっていますか？

子どもの言い分や考えを尊重する心のゆとりがありますか？子どもを家族の一員として相談したことがありますか？ときには、親から相談を持ちかけることも必要。頼りにされているという気持ちを持たせることが大切。

### ワンポイントアドバイス

物わかりが良すぎてもダメ。

一言余計な教訓はダメ。

じっくり聴くことのできる親に。

## ⑱ 子どもと共に夢を語り合おう

自立した子どもに・・・そのためには

夢を話題に・・・

将来を見通して・・・

### ワンポイントアドバイス

子どもの成長に夢をもって、目標をもたせる前に、親自らが生き生きとした生活を

明るく、朗らかに、わたしが太陽に・・・

## 見逃さないで！ 子どもの心のSOS

資料4

「思春期の子どもは皆、同じ不安を抱きます。不良といわれる人も例外ではありません。本人が気付いていないだけで、心のどこかに不安があるんです。  
自分は必要とされているのだろうか。  
自分をありのまま認めてくれるのだろうか。  
私たちは、いらない存在なんかじゃないって  
自分で確信できるほど大人じゃないんです。  
私たちの反抗の裏には『助けて！』という救いを求める声が隠されているんです。  
だからおねがい！  
私を認めてください！ 私を必要としてください！ 私を愛してください！」

ある少年事件の後、上記のような子どもの投書が新聞に載りました。

今も、子どもをめぐる問題が、マスコミに出ない日はありません。

いじめ、体罰、自殺、児童虐待、不登校、引きこもり、少年非行、少年犯罪……  
何度となく悲しい事件が繰り返されているが、実際の状況は改善されていません。  
そして、結局は「今の子どもは、わがままで」「ひ弱だ」「忍耐力がない」など、子どもの問題にすり替えられて、適切な対応がなされぬまま、同じことが繰り返されています。

子どもをめぐる問題の根っちは、自己肯定感の低さとも言えます。

自己肯定感の低さとは、

「自分は、誰からも必要とされていない」

「自分は、いらない存在だ」

「自分は、存在価値がない」 という感覚です。

この背景には、周囲から存在を否定されて、何度も深く傷ついてきた体験があります。  
引きこもりや非行は、「このままじゃ生きていけないよ」という心の叫びです。

「救いを求める声」と言っているのは、このような気持ちです。

「甘えるな」「わがままで」…子どもの甘えの否定、自立(自己主張)の否定により、今の子どもを追い詰め、自己肯定感を低くしているといっても過言ではありません。